

# 天体観測ドーム 今月のOPEN日

6日(土)～8日(月)・13日(土)・14日(日)・

20日(土)・21日(日)・27日(土)・28日(日)

日没から午後9時30分まで(晴天時のみ)



# 星空通信



2024年1月号

- 1日 木星が留
- 2日 水星が留
- 3日 地球が近日点通過
- 4日 下弦/18時頃、  
しぶんぎ座流星群が極大

- 11日 新月
- 12日 水星が西方最大離角
- 18日 上弦
- 26日 満月



## ☆用語解説☆

留<sup>りゅう</sup>…惑星が順行⇄逆行へ変わる時、一時停止して見えること

せいほうさいだりかく<sup>せいほうさいだりかく</sup>…地球から見た天球上で、太陽の西側にもっとも離れる瞬間。



## ★今月の惑星情報★

### 水星

日の出前の南東の空で高度を上げ、12日に西方最大離角となる。1/3～17日までの明るさは0.2等～-0.2等。下旬には徐々に高度を下げ、観察しづらくなります。

### 金星

日の出前の南東の空に見える。明るさは-4.0等～-3.9等。

### 火星

見かけの位置が太陽に近く、観察には適していません。

### 木星

1日に留となり、以降は東向きの動きに転じる。留の頃には、星空の中での木星の動きが止まったように見える。留以降は、おひつじ座を東に移動。宵の南から南西の空に見え、明るさは-2.6等～-2.4等。

### 土星

みずがめ座を東に移動しています。宵の南東の低空に見え、明るさは1.0等。

## しぶんぎ座流星群を観察しよう！

今年のしぶんぎ座流星群の極大は1/4の18時頃と予想されています。日本のこの時間帯は放射点の位置が低く観察に向いていません。4日未明、5日未明が見どころになります。4日は放射点が高くなるにつれて流星が増え、5時頃が最も多く見えるでしょう。5時頃に実際に見える流星の数は空の暗い場所で1時間あたり約10個です。5日は極大を過ぎて流星群が減る効果と放射点が高くなって流星群が増える効果がつり合い、2時～5時まで前日とほぼ同じくらいの流星群となりそうです。空の暗い場所でやはり1時間約10個程度と予想されます。(両日とも月の明かりが影響するため月のない方向で観察しましょう。)

